

声で居場所特定 サル探知機

二ホンザルによる農作物の食害を防ぐため、サルの声を検知して山に追い返すシステムの開発に悩む地元の舟山森林生産加工販売協同組合(岐阜県関市上之保)が進めている。上之保地区に出現在するサルは90%以上の確率で検知できるまでになつた。2010年まで

上之保地区には10年ほど前からサルが群れで下りてくるようになり、収穫間近のタラの芽やヤマイモを食い荒らす被害が多発。農家の被害が1軒当たり年間約100万円になつたた

岐阜大・横田准教授が開発

に鳴き声が微妙に異なる他地域のサルにも対応できるシステムとして完成させる。

上之保地区には10年ほど前からサルが群れで下りてくるようになり、収穫間近のタラの芽やヤマイモを食い荒らす被害が多発。農家の被害が1軒当たり年間約100万円になつたた

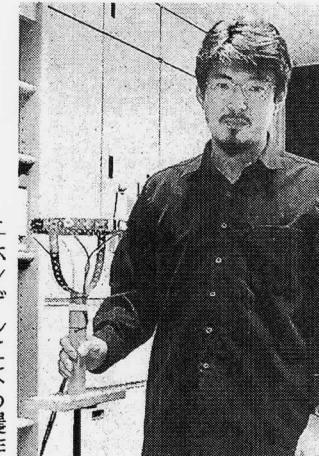
【石山絵歩、写真も】

音や光で追い返し 農作物の被害防ぐ

二ホンザルによる農作物の食害を防ぐため、サルの声を検知して山に追い返すシステムの開発を、岐阜大工学部の横田康成准教授(41)と、被害に悩む地元の舟山森林生産加工販売協同組合(岐阜県関市上之保)が進めている。上之保地区に出現在するサルは90%以上の確率で検知できるまでになつた。2010年まで

では視覚は当てにならない」と音を利用する方法を提案した。システムは音を拾う小型マイク、音を増幅させる装置、音を解析するパソコンで構成し、出没するサルの鳴き声の特徴を録音・分析して自然のさまざまな音からサルの声を識別するプログラムを作つた。

マイクは直径20秒の円状装置に等間隔で5個取



鳴き声でサルを感じ知するシステムを開発した横田准教授。右手で持っている装置はマイク

め、同組合が05年5月、横田准教授にシステム開発を依頼した。

横田准教授は「暗い森では視覚は当てにならない」と音を利用する方法を提案した。システムは

音を拾う小型マイク、音を増幅させる装置、音を解析するパソコンで構成し、出没するサルの鳴き声の特徴を録音・分析して自然のさまざまな音からサルの声を識別するプログラムを作つた。

マイクは直径20秒の円状装置に等間隔で5個取